

風のよう

甘木教会



主任牧師：崔大凡

牧会委嘱牧師：竹田孝一

心騒がせるな。神を信じなさい。ヨハネ14：1

【説教要旨】

心騒ぐ激変する時代を私たちは生きています。しかし、信仰生活をイエスさまに守られて60年歩んできて、時代がどうであれ歩めるというおかしな思いがあります。

60年、歩んで来て、いつの間にか一つのことにとだわるようになってきています。どこを切っても金太郎飴のように、どこを切ってもイエス・キリストであるということです。いつも私は、こだわりからぬけきれていない。イエス・キリストという方と。」

「私は道であり、真理であり、命である」という方にこだわりを持ち続ける者が私たちキリスト者であるのです。

ヨハネは、神、イエス・キリスト、私という関係において強くこだわりを持つ福音記者です。つねに父なる神、子なる神キリストとの関係の中で語ります。

「真理」ということについて聞いていきましょう。「真理」と言いますと哲学的で難しいことのように受け止めますが、哲学のようにどこにおいてもどの時代においても正しい法則または知識という意味でヨハネは使っていないことに気づきます。人が他者との関係の中で経験する信頼の意味です。ヨハネにとって真理とはイエス・キリストによって真実に愛されたという経験です。またそれは同時に神に愛された、神の真理を経験する

ことであるということです。真理はただ単に人を賢くするものではなく、また知識ではなく、神とキリストと私という愛における関係の中で経験する信頼です。イエス・キリストによって真実に愛されたという経験です。またそれは同時に神に愛されたという経験が真理ということです。

真理という言葉は、私たちが祈りのときに唱える「アーメン」という言葉と同じです。固いという意味であり、ですからへなへなしたのではなくがっしりした、しっかりした固い、ものを支えるということです。この固い、支えるものが、真理の意味であり、ヨハネは、イエス・キリストによって真実に愛されたという経験です。またそれは同時に神に愛されたという経験であるということです。これは「信じないのか」というフィリポに言われた言葉にあるように、イエス・キリストを、神を信じるということからすべてが起きるのです。私がイエス・キリストによって真実に愛されたという経験、またそれは同時に神に愛されたという経験を信じるときこそ人知を超えた神の力が働くのです。「はっきり言っておく。わたしを信じる者は、私が行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる」と言われるのです。確かにすべての希望が打ち砕かれていくときがある。神も仏もないということに襲われるときもあります。自分を支えるものなんかあるものかというように夢も期待も希望もこなごなになる、されるときがあるでしょう。ここに十字架の経験がおきるのです。しかし、私たちはこだわり続ける「イエス・キリスト」に。そこから全てが始まります。私たちは孤児ではない、愛されていない存在でもない。「神は愛なり」。私たちはイエス・キリストとともに生き、神と生き、イエス・キリストに愛され、神に愛された存在として今を生きています。

だから自分を支えるもの、夢も期待も希望も粉々に打ち壊される場であって、つぶやくのではなく、私たちはここから何かができる、前に向かって歩みだされる固い真理、神の愛に足をおく人、それが私たちです。ルーテル幼保の研修の最後の日に「みなさん、ここを出ていく時、それぞれの内にみ言葉をもって出ていきましょう」と次男は「私は父がいつも言っていた『神は愛なり』という言葉をもって帰って行きます」と結びの言葉で呼びかけました。

今、幼稚園、保育園は、激しい時代の変化に立っています。打ち砕かれ、もう出来ないと諦めてしまいそうになります。時代の波に呑まれ、あるいは、風に吹き飛ばされそうになります。柴田愛子さんが、保育者について「受け止めることは寄り添うこと」と言っています。これを保育者でなく、イエスさま、神さまとするなら、激しい時代の変化に立って右往左往している私たちは神に、イエスさまに受け止められているということです。同時にイエス、神は寄り添ってくださり、「心騒がせるな。神を信じなさい。」と語りかけてくださっています。だから、私たちの内から、この苦難の時から、苦難の時だから、託された仕事があるはずだ、何かができそうだ、何かができるとあふれ出る「やりたい」という気もちに突き動かされ、夢中になって神の、イエスさまの愛のわざに夢中になって、とことん神とイエスさまとともに遊び込めるのです。こういう私たちの命、日々の歩みがあるのです。

わたしが言うのを信じなさい。もしそれを信じないなら、業そのものによって信じなさい。12 はっきり言うておく。わたしを信じる者は、わたしが行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる。わたしが父のもとへ行くからである。13 わたしの名によって願うことは、何でもかなえてあげよう。こうして、父は子によって栄光をお受けになる。14 わたしの名によってわたしに何かを願うならば、わたしがかなえてあげよう。」

私たちの歩みを確かのものとしてされています。

牧師室の小窓からのぞいてみると



連休に入るが、これは日本だけの休みで、実は、連休中も世界は動いている。休んでいる間も、世界の動きは私たちに影響を与えてくる。休めないのが今の時代である。

今、深刻な危険な動き、大国が一人の人間の思いで動きとなってストレートに世界に影響を与える。独裁者、ロシアのプーチン大統領、中国の習近平国家主席である。さらに深刻なことは民主主義国家であるはずのアメリカがトランプ大統領の狂気で戦いに明け暮れているということである。

そんなとき、私たちは神の前における良心の生き方を捨ててはいけなさと時だと思っている。預言者よ生まれろ。



園長・瞑想？迷走記

2) 多(他)文化の中で

教育・保育をしていく

① キリスト教主義保育は、その内容の充実に常に応えていく姿勢と実行する。現代社会において、幼児教育、保育の現場は、多(他)民族の多くの子どもがやってきていることにどう応えていくは、教育・保育の質を深めていくことにつながる。

a)原則：一人一人が人格をもっていることは、民族を超える真理である。

子どもは一人ひとり人格をもった存在である。

b) 同質なことを求めるのが私たち日本人の気質がある。

「日本に来たのだから日本のやりかたに従え」という声がある。では、聖書の同質とは？

子どもは神が与えてくださった尊い一人一人であるということとは民族を超えて同質である。

民族を超えて一人一人が人格をもっていることであるということにおいて同質であるということをおぼえてはいけな。

c)世界を超えてみなが祝福を受ける権利がある。

日毎の糧

聖書：私の時は、御手の中にあります。詩編 3 1:1 5



ルターの言葉から



私たちは取るに足りない卑しいものであるかもしれないが、私たちを通して語りたもう神はあなどられるような方ではないということだ。

信頼

「単に嘆願の詩篇と言う以上に、本篇の背景に何か特徴を与える主題がひそんでいるのだろうか」①というように信頼の表明、救いの体験、苦難の描写が繰り返され、とりとめのないように見えるゆえにこのような疑問が出てきたのは当然である。

月本氏は、「本詩全体を苦難から救われた信仰者による感謝と讚美」②としている。

また、「本詩全体をヤハウエの『慈悲』（8, 17, 22節）と詠い手の「信頼」（7, 15節）という神学的視点からまとめあげている。そこから『わが霊を御手にゆだねます』（6節）『わが時は御手の中です』（16節）といった、本詩に独特な深い信頼の言葉が紡ぎだされたのである。」③というなら、信頼の詩篇といってもよいのではないだろうか。

神への信頼は、良い時も、悪い時も、「時」を神の時と受け止める。「この詩人は如上の意味において時を正しく理解し、それがすべての神の手にあることを体験的に感得し、それによって彼は暗黒の室から光明の部屋に移されることが出来た。それ故詩人にとって時は運命とか宿命とか言うべきものでは摂理である。それは『破れた器』のごとき絶望の状態に陥る時にも、なお光を全く失わず、希望の回復を忍耐して待ち、やがて、勝利の確信にまで導かれて行くものであることをこの詩は強く教えている」④

引用文献：①「新共同訳 旧約聖書注解Ⅱ」太田道子 日本基督教団出版局

②③ 「詩編の思想と信仰Ⅰ」 月本照男 新教出版

④「詩篇」 浅野順一 岩波新書

祈り：神よ。私を守り、導いてくださることを信じる信仰にたてるようにしてください。アーメン。

甘木通信

「すでにあつたものは、またある、すでになされた事は、またなされる。日の下には新しいものはない。」コヘレト1：9（口語訳聖書）



若い神父が果敢に宣教に取り組んでいる様子の分かるYouTube 配信、「大西勇史の神父チャンネル」のファンでよく見ている。今回、「みんなで育っていきたい」というテーマで山口にあるザビエル聖堂行われる、「サビエルフェスタ」についての話であった。マルシェ型（マルシェとは市場という意味で多くの教会以外の出店を出していただく）のイベントを紹介している。教会に多くの方に集まっていただきたいと願いをもっていただき地域の知っている方の出店をしていただいたという。一日を多くの人に開放する。教会に来るきっかけ作りをし、生活の導線に入っていたいただきたいと祈りがあつた。

同じことを考えるなあといふ微笑んでしまった。「すでにあつたものは、またある、すでになされた事は、またなされる。日の下には新しいものはない。」と感じた。刈谷教会の新会堂が出来たとき、地域に認知され、多くの方々が教会に集って欲しいと願って、「ガレージセール」をした。多くの方が集まってきた。「サビエルフェスタ」は1,000人を超す人が集まってきたという。

今、甘木教会ものぼり旗を作り、牧師、園長だったKさんがいるとき教会、幼稚園によってくださいと呼びかける準備をしている。誰でも生活の導線になる。夢です。

(甘木日記)土) 庭、花壇の草取りをみんなで。草の勢いは強い。日) 午後から雷雨、役員会。響け、福音が。月) 朝、幼稚園に行き、打ち合わせをして休みに入り、門司へ。海峡の向こうの下関は松崎保育園の子らが遠足に来ている。火) 体が重い。水) 日善幼稚園のホームカミングデイで卒園生が70名ばかり来てくださる。用意をしてくださった教会の方に感謝。木) 松崎保育園、甘木教会へ。雨の合間をぬって教会の庭の草を取るが間に合わない。金) 幼稚園に出て、久留米教会役員会への報告書作成、夏の花の準備。創立記念日の礼拝。甘木教会の主日の準備。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。はぐちらない聖人（牧師）もいますが。

土）正午頃に甘木教会に向かう。体調も大変に回復したのか体に芯が出来、力が入る。これも恩師との会食によるのだろう。礼拝の準備をし、芝、花壇の草取りと段取りをして取り掛かっていると家内がまず、通りかかった信徒親子が手伝ってくれて爽やかな環境が整う。寝る前になってインドネシア語に週報他を用意していないのに気づき慌てて取り掛かる。老いる、こんなことが多くなるんだろう。日）昨日の庭の手入れで疲れていた。用予報は雨。庭の仕事もしないで良いかと思っていたが、雨は降っていない。こっちの思いを砕かれ、掃除、草取り。終わって会堂はいると雨が降り出す。（笑）中村哲さんのことがラジオから聞こえてくる。そこで、なぜ哲さんは厳しい、無駄と思える仕事をしているのかという問いに「わしゃあ、バカヤから」、危険を顧みず働いたのに対して現地のスタッフが「危ないから来ないでください」というと「同じ人でしょう」と答えたという。いつも死を覚悟していたという。「バカな力」、パウロの言葉を思い出す。「神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強い」。死を覚悟、「わたしは良い羊飼いである。わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。・・・わたしは羊のために命を捨てる」

というイエスさまの言葉を思い出した。イエスの中を哲さんは生きていたんだ。反省させられる。午後から雷雨。役員会。主管牧師も変わり新しいスタート。月）幼稚園はフリータイムの休み？快晴。故郷へ行く。小学校時代の通学路も、遊んだ山の公園も草だらけ。生徒は少ないという。ユウカリの木と6年生過ごした校舎、渡り廊下は残っていた。火）休みに慣れたのか、幼稚園に行く足も重い。水）久留米・日善幼稚園は、ホームカミングデイ（同窓会）をした。110年の歴史があり、開催通知をホームページに、掲示板に頼った。また教会の方々の助けで、一部の卒園生、旧職員に案内を送ることが出来て多くの方が来た。さらに広げていくには名簿の整理をし、多くの方々にお知らせしなくていけないと思う。木）雨が降ったり止んだりの一日、松崎保育園で職員の聖書の学び礼拝。職員で、バラを育てておられる方がバラの花を届けてくださる。種類の多いこと！午後から甘木教会へ。雨が止んでいるとき庭の草を取っているとジャーマンアイリスの開花が旬を超えているに気づく。

金）主任が午前中いないので、早く幼稚園に行く。夏を飾るベコニアを植え、薩摩芋畑を作る。夏が楽しみになあってウキウキしてくる。創立111年の記念日の礼拝。

